

それにつけて思うことは、健康であったから今日を迎えられたこと、屈足小学校時代先生が厳しく鍛えて下さったので兵役にある時、100名の昇任受験者の中から12名合格者の中に小学校卒は私一人です、それが6番で合格の喜び、又戦後屈足地区より、食糧強権供出を体を張って調整したこと、多くの公職を与えられこれを通じて地域社会に少しは役に立ったことなど、種々と胸の中を流れるものがあります。開拓という仕事は妻が一番の協力者であり、家庭が一つになって頑張らなければならないものだと思います。

丹 羽 馨 さ ん

(明治43年生)



私の母は、85歳で亡くなりました。当時屈足で、稲作を始めるについては、草分け的で、おそらく一番早く水田開発を実行した人であったと思うね。ただし、苦勞しました。寒地向く品種が少なく、又、気候的に厳しいし、水利は悪く、水は冷たいし、それに秋は早い。良いことなし。加えて、当時稲は、自然乾燥ですから、稲束を「ハサ」から降ろす頃には北風は強く、時には雪さえ混じることもしばしば。手は凍る、足は冷たい。もう泣きたいようなおもいでした。

その後、種籾の取り扱い方も研究し、同時に農家も慣れて、播種方々も、手でばら蒔きでは均等に撒かれないので器具を使用することになるのですが、この器具を、私の「イトコ」に当る、黒田（旭川在住）という者が考案したのが俗に「タコ足」といわれる器具なのです。

これが出現してから、画期的に稲作収穫は増大し、造田反別も増えたと、現在でも識者の間で語り伝えられています。後に黒田は事情あって、器具の権利を他人に譲ったので名称は変わっておりますがね、当時水田作業は大変な苦勞なものでした。……………（黒田式水稲直播器いわゆるタコアシ）……………東旭川屯田兵村の未武安次郎氏により発明されたもので、安次郎氏が再起不能の病を得て闘病13年、その間この大発明完成せしめた夫人マス氏の、血のにじむ忍苦の努力があって日の目をみた器具なのである。（高倉新一郎氏著書より）

